

ホームページへの掲載

2月13日掲載

岐阜県立東濃高等学校

学 校 長 亀山 弘

学校住所 可児郡御嵩町御嵩 2854-1
0574-67-2136 fax0574-67-6204
ホームページ <http://school.gifu-net.ed.jp/tono-hs/>

- 1 会 議 名 東濃高等学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和2年1月23日(木) 13:00~15:00
- 3 開催場所 東濃高等学校 会議室
- 4 参 加 者 委 員 寺本 公行 御嵩町副町長
各務 眞弓 可児市国際交流協会・フレビア事務局長
田中 妙子 会社経営・税理士
山田 泰平 東海化成工業(株) 業務部 人事・総務課長
斉藤 之男 御嵩町ボランティア「輝き隊」
林 正紀 東濃高等学校PTA会長
池田 万里 東濃高等学校PTA副会長
古賀 和美 東濃高等学校PTA副会長
佐々木 亜弥 東濃高等学校PTA書記
学 校 側 亀山 弘 校長
脇田 治之 事務長
青井 俊久 教頭
溝下 肇 教頭
片山 澄美 進路指導主事
- 5 会議の概要(協議事項)
 - (1) 学校長挨拶・日程説明
 - (2) 今年度の取組
 - ・進路状況
 - ・ICT機器の活用状況と今後
 - ・学校評価
 - (3) 来年度へ向けて
 - ・教育課程の編成
 - ・地域連携による活力ある学校作り推進事業
 - ・ふるさと魅力体験事業
 - ・生徒心得の改定
 - (4) 質疑・意見交流
 - (5) その他・諸連絡

6 会議のまとめ

開会挨拶	・委員交代の連絡・新委員の紹介 ・生徒の努力の成果を紹介（国公立大学・短期大学の合格者、男子バスケットボール部県大会出場。ともに本校として久々の快挙である。） ・本日の会では忌憚のない意見を伺いたい。
進路状況について	・本校では就職希望者が約半数を占めている。地元志向が強く、本校に寄せられた求人票に基づき、ほとんどの生徒が希望する企業の内定を得られている。 ・就職希望の外国人生徒の中には「派遣社員でいい」と言うものもある。 ・国公立大学・短期大学の合格者はともに外国人生徒で、英語力を生かした受験により合格した。英検に合格していたのも強みとなった。 ・進学希望者は指定校推薦を利用して合格した生徒が多いが、学力試験が実施された大学もあり、やはり学習習慣が身につけている生徒が合格している。 ・専門学校への進学については、学費の問題により断念する生徒もいる。
デュアルシステム及び インターンシップにつ いて 質疑1	デュアルシステムを導入してはどうか。企業で学ぶという社会経験になるのではないかな。
回答	——まずは、短期間のインターンシップから始め、企業との連携がうまくいけば実現する可能性はあるが、町の協力も必要になると思う。本校のキャリア教育プログラムは、企業で学ぶよい機会になっている。
質疑2	企業側として、生徒の安全が第一であり、財政的な面からもインターンシップではシンプルな作業しか行えない。そのため、作業が未来像につながりにくいことが考えられる。企業の方に学校で話をしてもらう、ということであれば協力してもらえるのではないだろうか。
回答	——是非、企業側に直接生徒に話をしていただく機会をもちたい。
意見1	インターンシップは「安全第一」で怪我等を避けたいので、どうしても簡単な作業になってしまう。万が一、「クレーム＝返品」となると、大問題で企業の負担が大きい。一方で、会社風土やどんな人たちが働いているかを知ってもらうよい機会になると考える。
質疑3	生徒には「派遣社員でいい」と思わないでほしい。「東濃高校ブランド」というカードが使えるのは一生に1回のみなので、そのカードの使い方を学校でもしっかり理解させてほしい。外部の人に話をしてもらうのも効果的である。
回答	——外国人生徒が多いという本校特有の事情がある。日本人と考え方が違い、「帰国を見据え、短期なら派遣社員の方が有利な点が多い」という考え方もある。
意見2	「正社員は休みをとりづらい」「（正社員だと）2年間でやめるのは申し訳ない」といった理由もある。日本語に自信が持てず、心細い気持ちもあるので、配慮をいただきたい。
質疑4	高校卒業者の離職率はどのくらいか。

回答	——本校卒業生についての正確なデータがあるわけではないが、確かに辞めてしまう者もいると聞いている。
意見3	一般に高卒で就職した者は約5割が数年のうちに離職してしまう。そのため、学校と企業とのマッチングがうまくいくように学校での指導が必要である。また、離職してしまった人がその後どのようなハンディキャップを背負うことになるのかを理解させておくことも大切である。
質疑5	就職したくないという消極的な理由で進学を選ぶ生徒もいるが、卒業生で進学後に辞めてしまう者はいないのか。
回答	——確かに進学後に辞めてしまう者もいると聞いている。
ICT機器の活用状況について	・ホワイトボード、プロジェクター、書画カメラの導入により、授業プリントをホワイトボードに投影し、さらにそこに書き込むことなどができるようになった。 ・教員がデジタル教科書や作成した独自の教材を、容易に提示できるようになった。また、動画等の投影も実施している。 ・本校では今月タブレット端末が導入され、教員向けの説明会を実施したばかりである。 ・今後はタブレット端末を活用することで、さらに授業の可能性が広がる。 (例)・教室で生徒がタブレット端末を用いることで、ワード等を用いてレポートを作成したり、それをホワイトボードに提示したりできる。 ・デジタル教科書の画像等を手元で見ることができる。 ・情報実習室以外でもパソコンの指導ができる。 ・今後はICT機器を活用することにより、授業の更なる充実を目指していく。
教育課程について	・「何を学ぶか」(身につけさせる知識)だけでなく、「どのように学ぶか」(主体的・対話的で深い学び)とさらにその土台となる「何ができるようになるか」(育てたい生徒像)から逆算的に教育課程を編成していくことになる。そのためにも、地元の方々が本校の生徒に対し、何を期待しているか伺いたい。 ・「類型」について、本校は普通科高校だが「工業類型」(定員10名)がある。本校としては継続していきたいが、施設もなく、教員も他校から派遣していただいているのが現状で、派遣する側は負担が大きく、辞めたいという意見もある。本校としては継続したいと考えており、意見をいただきたい。 ・「地域づくり類型」(定員10名)は非常に良い勉強ができるが、学校側の負担も大きく、スリム化が必要かもしれない。 ・「工業類型」はあるが、「農業類型」はない。
意見4	「農業類型」を立ち上げるならば、大学や大学校との連携を目指す。
質疑6	アクティブラーニングの一環として、生徒にボランティアとしてフレピアに来て欲しい。そして、通訳だけでなく、日本語を教えられるようになって欲しい。
回答	——今の生徒は対価を求めることが多く、単位に組み込むなど制度化しないとボランティアは根付きにくい。
質疑7	工業類型で「工業」を学ぶことは、工業高校への進学は敷居が高すぎると感じる生徒にとって、社会に出る近道であるため存続してほしい。たくみアカデミーとの連携を期待する。(たくみアカデミーへの進学を含む。)

回答	——たくみアカデミーの教員は「教員免許」もっていないため、高校の単位が出せないことが課題である。生徒たちは熱心に学んでおり、多くの選択肢があるとよい。本日の意見をいただき、「工業類型」は必要であると強く実感できた。
地域連携による活力ある高校づくり推進事業について	本校代表生徒が夏季休業中に環境モデル都市である下川町（北海道）を訪れて研修を行っている。今年度は校長と生徒3名が御嵩町職員や町内中学生らに同行した。その成果は2月の御嵩町環境フェアで発表することになっている。来年度も実施予定である。
ふるさと魅力体験事業について	岐阜県内の施設を訪れて研修を行う事業で、本校では来年度の2年生がアクアトト（各務原市）を訪れることになっている。ただ単に「ふるさとが好き」という生徒を増やすのではなく、主体的に学ぶ姿勢を育成してきたい。
生徒心得の改定	・次の4つの観点から見直しを行った。 （1）説明責任を果たせる内容である （2）校外の生活は保護者や地域の教育力に委ねる （3）人権侵害にならないように配慮する （4）時代の要請や社会常識の変化に伴って適応できる内容とする。 ・改定の背景には時代の流れがあり、県全体で動いている。 ・「制服をなしにするべき」という意見もあるが、きちんとしたルールがないと規範意識が薄れていく可能性があるとの反対意見もある。
質疑8	新入生の制服購入は経済的負担が大きいと、先輩から譲り受けた制服も認められているのはよいことである。しかし、毎年刺繍の位置が変わっているなど、先輩・後輩でのやりとりがうまくいかないこともある。サイズによっては知り合いからの入手が難しいことも考えられる。
回答	——刺繍の位置は変更していないはずである。
質疑9	卒業後に不要な制服を預かり、バザーなどで次世代に譲るシステムができるとよい。学校の取り組みとしてできないか。
質疑8・9への回答	——ある中学校で似た取り組みがされたことがあるが、そのとき解決しなければならないと思われる点がいくつか浮上した。 ・保管場所をどうするか。 ・クリーニング代を誰が負担するか。（寄付する側に負担してもらうことはできない。しかし、保管が長期に及ぶと、カビが生える心配もある。） ・アトピーや衛生面での心配がある。 ・学校では現金が扱えない。（PTAで協力する体制が必要）
質疑10	クリーニング代は譲り受ける側が負担するべきだが、保管中の問題がある。（保管前にクリーニングしなければならない。）なお、別の中学校では環境教育の一環として、フリーマーケットで制服を扱っている。
回答	小学校から中学校へは、どの中学校に進むかは事前にわかっているが、高校の場合は入学者選抜があり、進学先の決定時期が遅い。学校が関与することは難しいので、当事者間でやってもらえるとよい。
意見5	フレビアでも同様のことは行っている。高校退学者から「買ってくれ」と言われたこともある。
その他意見6	本日「地域づくり学習報告会」に参加させていただいたが、発表は非常に興味深く、実践可能なものもあったと思われた。時代の最先端である学びのスタイルなので、ぜひ続けてほしい。

意見7	本日の会でさまざまな意見を聞き、とても勉強になった。
意見8	学校と企業とのマッチングという点では、行政側による「知ってもらう場」の提供が必要であるため、学校側と知恵を出し合っていきたい。（以前は「産業祭」に企業ブースがあり、生徒も気楽に参加できたが、6年前になくなったという経緯がある。）そして、より多くの生徒が地元へ愛着を持ち、就職し、この地に住んでくれるとよい。
学校側の意見	地元御嵩町内の生徒が本校には少ないので増やしたい。 東濃高生の中には、高校3年間を過ごしたことで、御嵩町を第二の地元と思っている生徒は少なくない。